

高等学 校

平成 29 年度

# 教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	3
IV	研究方法	3
V	研究内容	5
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

<b>研究主題</b>	<b>生活における課題を見だし、解決策を構想する思考力を育むための授業改善</b>
-------------	---

## I 研究主題設定の理由

現代社会は、変化が複雑で、将来の生活が展望しにくい。変化の激しい現代社会を生き抜く生徒には、新しい社会に適応する力の育成だけでなく、変化の本質や背景を見抜き、夢や目標をもって積極的に行動し、主体的に社会に参画する力と、自らの可能性を伸ばし、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが重要である。そのためには、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、複雑化・多様化した現代社会の課題に気付き、その課題解決につながる価値観や行動を生み出すための、新しい未来の姿を構想し実現する力が求められる。

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）（以下、「答申」という。）では、「現行学習指導要領を踏まえた家庭科の目標の在り方」において、「普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。」一方で、「家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育機能の低下等も指摘される中、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。」とあり、「家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。」とある。

また、教科「家庭」において育成する資質・能力は、実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から課題を見だし課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することである。

これらを踏まえつつ、高等学校家庭部会では、まず家庭科における新しい時代に求められる「思考力・判断力・表現力」を以下のように定義した。

- 家庭科における新しい時代に求められる「思考力・判断力・表現力」
- 家族・家庭や社会における生活の中から課題を見だし、解決すべき課題として設定する力
  - 生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え解決策を構想する力
  - 実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する力
  - 他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力

本年度の教育研究員全体の研究主題は、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」である。高等学校の各部会共通の研究主題「新しい時代に求められる『思考力・判断力・表現力等』を高めるための授業改善」に沿って研究を進めるにあたり、高等学校家庭部会

では、「思考力・判断力・表現力」の中でも、生活の主体者である意識が不十分なため、実生活における課題が見いだせていないことから「課題を設定する力」と学習内容を生かすことにより、実生活を向上させることができることに気付かせるための「解決策を構想する力」を特に生徒に身に付けさせたい資質・能力と考え、「生活における課題を見だし、解決策を構想する思考力を育むための授業改善」と設定した。

## Ⅱ 研究の視点

研究主題は「生活における課題を見だし、解決策を構想する思考力を育むための授業改善」である。本研究では以下の二つの視点から、研究及び検証授業を行うこととした。

視点1：生活における課題を解決する経験を繰り返すことにより、自身の生活を顧みたときに生活における課題に気付くことができる

生徒は家庭の営みを主体的に行う立場になっていないため、自己の生活における課題を見付けにくい状況にあり、授業の内容を自分の生活に置き換えて考えることが難しいことがある。

そこで、生活における課題について解決策を考えさせるための例題を与え、授業での学習内容を活用し、解決策を考えさせることで、学習内容を生かしていこうという意欲をもたせ、「ただ何となく理解した気持ちになる」ことで終わらせないようにする。

また、生徒は異年齢等、他者の意見を聞く機会に乏しく、多様な意見や価値観に触れる機会が少ない傾向にある。そこで、様々な資料を読み取ったり、話し合い活動によって他者の意見を聞く機会を取り入れたりすることで、様々な考え方があることを知り、物事を多角的に捉えることができるよう促す。

多様な意見や価値観を取り入れながら、生活における例題を解決してみる経験を繰り返すことにより、自身の生活を顧みたときに生活における課題に気付くことができるよう促す。

視点2：学習内容を活用し、生活課題についての具体的な解決策を考えることで思考力を育み、自己の生活が社会と繋がり、社会に参画し貢献できる存在であることに気付かせる

家庭科の学習では、実験や実習を総授業時数の10分の5以上配当する。学習した内容が、家庭での生活で実践されることによって、家庭と社会との繋がりや社会に参画し貢献できる存在であることが分かる。よって、これまで家庭科で学んだ内容を生徒はどのくらい実生活で活用しているかを把握するため、学習内容の題材等を項目名とし、活用状況を問うアンケート（学習内容活用アンケート）を自校の授業時に実施した（表1）。

各校で行った母数等は同じではないが、実生活で「活用した」

家庭科の学習内容を生活で活用した割合（表1）

「活用したい気持ちはある」という回答が多く、生徒の学習への興味・関心は高いことが分かった。その一方で、生活を主体者として意思決定する立場にないため、実際に「活用した」と

	A 高校	B 高校	C 高校
活用した	19.2%	36.5%	22.4%
活用したい気持ちはある	48.2%	32.7%	58.1%
活用した＋ 活用したい気持ちはある	67.4%	69.2%	80.5%

回答する生徒数は少なく、授業の学びを自己の生活にすぐに活用することができていない状況であることも分かった。

そこで、毎時の学習のまとめに「学習内容をこれからの生活にどのように生かすか」を具体的に考えさせることで、自分の生活をよりよくしていける可能性があることに気付かせ、学習内容を生活に生かすための意欲を高めることとした。さらに、学習目標に対する自己の到達度を、学習前と学習後で確認させることで、思考が深化し、理解が深まったことに気付けるようにした。また、学習内容がどのくらい生活に反映されているか、学習内容活用アンケートも行い、生徒の実態を把握し、授業改善に生かすことにした。

### Ⅲ 研究仮説

本年度は、「課題を設定する力」と「解決策を構想する力」の育成を図る授業改善を行う。

現在及び生涯を見通して主体的に生活する意識が低く、実生活における課題が見いだせないことから、生活上よく起こり得る具体的な困った場面や解決策を考える場面を例題として与え、生徒が自己の生活に置き換えて思考できるように促す。授業での学習内容が生徒の生活に関わりがあり、生かしていこうという意欲とともに、自己肯定感や自尊心につながるような思考をさせ、生活における具体的な例題を解決していく成功体験を繰り返すことで、解決策を構想する力が身に付き、思考力が育成されると考えた。加えて、多様な意見を取り入れながら、生活における例題を解決してみる経験を繰り返すことにより、自身の生活を顧みた時に自己の課題に気づき、学習内容を生かし、解決策を考え、生活をよりよくすることができることやその生活が社会とつながっていることを理解できる思考力を育み、社会に参画し貢献できる存在であることに気付かせられると考え、研究の仮説を以下のように設定した。

- 1 身に付けた知識や技術を活用し、生活における課題を具体的に解決する機会を設定することで思考力を育むことができる。
- 2 自己の学びを振り返り、実生活における自己の課題に気付かせることができれば、家庭や地域の生活を創造しようとする意欲を高めることができる。

### Ⅳ 研究方法

この研究を始めるにあたり、部員が共通して取り組む内容を以下に示した具体的方策として設定することで、学習分野の違いを越えて研究主題である授業改善を図り、仮説を検証できるようにした。

#### 1 具体的方策

- (1) 導入において到達度チェックと教員からの発問により、本時で扱うテーマ・ねらいを明示し、生徒に授業の見通しをもたせる。

家庭科では、取り扱う内容が多岐にわたり、授業のねらいも複数挙げられることが多い。しかし、本研究においては、授業の中心（核）となるねらいをより単純で簡潔に生徒に明示することを重要視する。「この授業を受け終わった時に何ができるようになっているのか、何が分かるようになっているのか」を、授業導入時に到達度チェックや発問によって示すことで、生徒に授業の見通しをもたせ、学習意欲を引き出す。

「授業の中心（核）」をどう捉え、「授業で育成する生徒の資質・能力」をどのように位置付けるか、また、それらを生徒に示す際の「発問」の在り方が授業の成否を大きく左右する。特に、「発問」については、簡潔な表現でありつつ、生徒が何を聞かれているか分かり

やすいものになるよう、工夫を凝らした。

- (2) 展開 1 生活における課題を「例題」として提示し、具体的に考察させ、対話的・協働的な活動によって多角的に捉えさせる。

学習内容の定着と知識の活用を図るため、生活における困った場面等を例題として提示し、その具体的な解決策を考えさせる。ここでは、生活における自己の課題を生徒自身に考えさせることはさせず、教員が一般的な生活場面で生じやすいと考えられる課題を例題に設定する。生徒の学習意欲を引き出せるように、その例題の名称には「お悩み あるある」との表現を用いた。

「お悩み あるある」では実生活上の課題を見付ける視点を示す一方で、生徒全員で同じ例題について考え、多角的に捉えさせる活動を通じて多様な意見があることを生徒に実感させることをねらいとする。多様な意見を引き出すため、対話的・協働的な活動を取り入れる。

- (3) 展開 2 生徒に本時の授業内容を実生活にどのように生かすか、考えさせ、具体的に記述させる。

「お悩み あるある」で解決策等を考え、学習内容を深化させた後、生徒一人一人に自らの生活を振り返らせ、授業で学んだことをどう生かしていくかを、次なる例題「やるやる 実践」で考察させる。家庭科の学びは授業内で完結するものではなく、実生活に生かしてこそ生徒が自らの生活を創造していくことができる。具体的に今日から取り組むことができることなどを考えさせ、自分の言葉で表現させるとともに生活の中での実践を促す。

- (4) まとめにおいて、本時の到達度チェックを行い、自己到達の達成度を本時の導入時と比較し、確認させる。

授業のまとめにおいて導入時に行った到達度チェックを再度行うことによって、生徒自身にこの時間にどのような学びが身に付いたかを実感させる。授業開始時には自分の理解度が不十分であることさえ分からずに高評価を付け、授業の学びを経ることでより高度な理解を求めて低い評価を付けるという逆転現象が生じる可能性はあるが、それを含めて生徒が授業による自らの変化を認識するよい機会となることが期待できる。単元ごとではなく授業時ごとに実施することで、生徒の学習意欲を高めつつ、生活の主体者の視点をもたせ、生活課題に取り組む意識を引き出すとともに、授業の学習内容の定着について担当教員も把握できる。

- (5) 学習内容活用アンケートを実施し、授業分析を行う。

授業改善を行うために検証授業において学習内容活用アンケートを実施し、生徒が具体的に考えを深め、生活課題を見だし、解決策を構想することができる思考力育成のための授業構成であったかを分析し、授業の改善方法を検討する。

## 2 検証方法

- (1) 授業の導入とまとめで行った到達度チェックに対する自己到達の状況を記入内容から読み取り、生徒の取組状況を把握する。

- (2) 授業内容を実生活にどのように生かすかを具体的に記述させた内容から、自身の課題に気付くことができているか、解決策を構想できていたかを把握する。

- (3) 生徒の思考力を育成することのできる授業構成であったかをアンケートから検証する。

## V 研究内容

### 研究構想図

全体テーマ 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

高校部会テーマ「新しい時代に求められる『思考力・判断力・表現力等』を高めるための授業改善」

家庭科における「新しい時代に求められる『思考力・判断力・表現力等』」とは

- ・家族・家庭や社会における生活の中から生活における課題を見だし、課題を設定する力
- ・生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え解決策を構想する力
- ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する力

高校家庭部会テーマにおける現状と課題

【現状】・現在及び生涯を見通した視点や生活の主体者である意識が不十分であるため、実生活における課題が見いだせない。

- ・自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識できない。

【課題】・異年齢の他者との交流など、様々な他者との交流を通して、多様な意見や価値観を知る機会を設定する必要がある。

- ・学習内容を生かして生活を向上させることができるということに気付かせたり、実生活における課題を解決したりする学習活動を行う必要がある。

【テーマ設定のための着眼点】

授業で生活における課題を解決する経験を積み重ねることにより、実生活の課題を解決し、生活を創造する力を育成していくことができると考えた。

#### 高等学校家庭部会主題

生活における課題を見だし、解決策を構想する思考力を育むための授業改善

#### 仮説

- ・身に付けた知識や技術を活用し、生活における課題を具体的に解決する機会を設定することで思考力を育むことができる。
- ・自己の学びを振り返り、実生活における自己の課題に気付かせることができれば、家庭や地域の生活を創造しようとする意欲を高めることができる。

#### 具体的方策

- 1 導入において到達度チェックと教員からの発問により、本時で扱うテーマ・ねらいを明示し、生徒に授業の見通しをもたせる。
- 2 展開1 生活における課題を「例題」として提示し、具体的に考察させ、対話的・協働的な活動によって多角的に捉えさせる。
- 3 展開2 生徒に本時の授業内容を実生活にどのように生かすか、考えさせ、具体的に記述させる。
- 4 まとめにおいて、本時の到達度チェックを行い、自己到達の達成度を本時の導入時と比較し、確認させる。
- 5 学習内容活用アンケートを実施し、授業分析を行う。

#### 検証方法

- 1 授業の導入とまとめで行った到達度チェックに対する自己到達の状況を記入内容から読み取り、生徒の取組状況を把握する。
- 2 授業内容を実生活にどのように生かすかを具体的に記述させた内容から、自身の課題に気付くことができているか、解決策を構想できていたかを把握する。
- 3 生徒の思考力を育成することのできる授業構成であったかを学習内容活用アンケートから検証する。

## 実践事例 1

科目名	家庭総合	学年	3 学年
-----	------	----	------

### (1) 小単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 小単元名：第2編 3章「住生活をつくる」
- イ 使用教材：「家庭総合 パートナーシップでつくる未来」
- ウ 副教材：「最新 生活ハンドブック」

### (2) 小単元（題材）の目標

- ・住居の機能について理解を深め、住空間の計画、住環境などについて生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの住生活を展望して課題を解決する力を養う。
- ・よりよい住生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

### (3) 小単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居の機能、住空間の計画、住環境などについて科学的に理解し、安全と環境に配慮した住生活を主体的に営むために必要な知識を身に付けている。</li> <li>・主体的に住生活を営むために必要な住空間の計画などの技術を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住空間の計画、住環境などについて課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居の機能、住空間の計画、住環境などの住生活の科学と文化に関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。</li> </ul>

### (4) 小単元（題材）の指導と評価の計画（9時間扱い）

	時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
			ア	イ	ウ	
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風土や生活と住まいの関わりを資料集やDVDで考える。</li> <li>・住まいの機能について理解する。</li> </ul>	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居や住生活に関心をもち、役割や気候風土との関係について意欲的に学び理解しているか。(ワークシート)</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージ別に必要となる住空間を考える。</li> <li>・二世帯住宅の特徴を考える。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・住空間への要求や各ライフステージに応じた住居について、具体的に考えることができるか。(ワークシート)</li> </ul>



第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統的な住宅の特徴を理解する。</li> <li>床座・椅子座の特徴を理解するとともに、現在の生活様式について考える。</li> </ul>	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な和風住宅の特徴を理解しているか。</li> <li>床座・椅子座の特徴を理解し、現在の自分の生活様式について考えることができるか。(ワークシート)</li> </ul>
	4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>住まいに必要な住空間と生活行為との関係を理解する。</li> <li>平面図からその家族の暮らし方を読み取る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活行為と住空間を関連させて、具体的な住まい方をイメージし、平面図の読み取りができるか。(ワークシート)</li> </ul>
第三次	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅広告から必要な情報を読み取り、平面図を基に、そこでの暮らし方を考える。</li> </ul>	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>建ぺい率や容積率、用途地域について理解しているか。(ワークシート)</li> <li>平面図を読み取り、住空間から生活をイメージすることができるか。(ワークシート)</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅情報から必要な情報を読み取り、住まい探しの注意点などを理解する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅情報を的確に読みとり、基本的な知識を身に付けることができるか。(ワークシート)</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>賃貸物件を探すDVDを視聴し、住宅情報を読み取る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅広告から情報を読み取り、自分の暮らし方を具体的に考えられるか。(ワークシート)</li> </ul>
第四次	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に配慮した快適な室内環境について考える。</li> </ul>		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康や安全に配慮した室内環境に必要となる基本的な知識を身に付けているか。(ワークシート)</li> </ul>
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して生活するため、安全に配慮した住まいや住環境について考える。</li> </ul>		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>住居の安全対策など、安心して住める住環境について関心をもっている。(ワークシート)</li> </ul>

#### (5) 本時 (全9時間中の4時間目)

ア 本時の目標

(ア) 住空間と生活行為との関係を理解させ、平面図から家族の暮らし方を読み取ることができる。

(イ) 現在の住まいの改善点を考え表現することができるとともに、自分のライフスタイルを考え、将来、希望する住居の条件を表現することができる。

イ 仮説に基づく本時のねらい

「お悩み あるある」では、例示した住居の平面図の方位や平面表示記号を読み取らせ、その住空間で行われる生活場面を考えさせる。

「やるやる 実践」では、生徒が現在の住空間での生活を振り返り、住空間の課題を考えるとともに、自分や家族のライフスタイルを考え、希望する住まいを表現する力を習得させる。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習目標を理解する。</li> </ul> <p><b>到達度チェック（発問）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図を見て住空間を読み取ることができるか、到達度を自己評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習目標を確認する。</li> <li>・学習意欲を喚起するため、平面図の読み取りにより、そこでの暮らし方が想像できることを明確に伝える。</li> </ul>	イ・ワークシートの記述を分析
展開 ① 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や資料集を読み、住空間の機能をワークシートにまとめる。</li> <li>・生活には四つの住空間が必要であることを確認する。</li> <li>・間取りは数字とアルファベットで表示することを知る。</li> <li>・平面表示記号を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住空間における記号等は、教科書や資料集を活用して自学することを指示する。</li> </ul>	ア・イ ワークシートの記述から、四つの住空間、LDKの意味、平面表示記号を理解しているかを分析
展開 ② 15分	<p><b>お悩み あるある</b> ＜グループワーク＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識を生かして例示された平面図を読み取り、動線の意味、方位について確認する。</li> <li>・例示された行動に対する動線とその理由を代表が発表する。</li> <li>・自分が将来家を購入すると想定したときの条件を考える。</li> </ul> <p><b>やるやる 実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家の住空間での課題や改善できる事を考え、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えられる動線は一つではないことや、考えた動線の理由が説明できるように指示し、代表者に発表させる。</li> <li>・既習した動線、方位を再度確認させる。</li> <li>・自分の家の住空間を振り返り、快適な生活が送れているか考え、改善点に気付かせ、解決策を考えさせる。</li> </ul>	ア・イ 方位を理解し、生活行為を動線で記入できているか、生活しやすい住まいの条件を考え、優先すべき内容を検討することができたか、をワークシートの記述より分析 ア・イ よりよく暮らすための工夫を考えようとしているかをワークシートの記述より分析
まとめ 5分	<p><b>到達度チェック（振り返り）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習による到達度を自己評価させる。</li> <li>・自分の理解の深化を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ知識を現在や将来の生活に生かし、課題の解決策を考え、実践することの必要性に気付かせる。</li> </ul>	ア・イ ワークシートの記述を分析

## (6) 本時の振り返り

### ア 到達度チェック

導入の到達度チェックでは、一人暮らしに適する平面図を提示し、「次の平面図を読み取ることができますか？」と発問し、現時点での自分の理解度を記入させた。導入時に「読み取れる」、「やや読み取れる」と回答した割合は55.9%であったが、まとめ時には83.8%に向上した。導入時に学習目標を明確に示し、生徒の学習意欲を高めるとともに、まとめ時に自らの学びの到達度を振り返らせることで、達成感をもたせる効果については、授業後に生徒に行った聞き取りにおいても、確認することができた。

### イ 「お悩み あるある」

展開①では、学習した基礎知識（住生活の機能、LDKの意味や用途、間取りや動線、平面表示記号など）を生かし、住空間に課題のある例題を提示し、学んだ知識を活用して具体的な解決策を考えさせたところ、85.2%の生徒が間取りや方位を正しく理解し、答えを導き出した。「仕事を終えた母が買い物をして帰宅し、食品を台所に置き、外が暗くなってきたので洗濯物を取り込み、たたんでしまった」動線を記入させる場面では、洗濯物が干してある場所、洗濯物をたたんでしまう場所に設定した理由を、各自よく考え、発表では自らの言葉で表現していた。また、将来、購入したい住宅の条件を質問したところ、住空間や生活行為を考え、理由を具体的にワークシートに記入することができていた。生活における身近な課題を解決する思考をさせることで、実生活においても課題解決を図ろうとする意欲や思考力、判断力、表現力等が身に付き、深い学びにつながった。

### ウ 「やるやる 実践」

住居における課題は、生徒自身で解決を図れるとは限らない。住まいに必要な住空間と生活行為に目を向け、今の住空間に批判的な意見も多く出されたが、生徒が住生活に興味をもち、将来の一人暮らしを想定したり、現在や将来の自分の家族との生活を想定したりしながら、今回学んだことを生かしたいという希望を膨らませていることも分かった。

## (7) 「到達度チェック」、「お悩み あるある」、「やるやる 実践」の改善について

今回の研究では、以下の内容が明らかになった。

### ア 到達度チェックの改善

到達度チェックの記入においては、導入時には生徒が集中し、説明を聞いていたため、到達度チェックの未記入者が7.3%と少なかったが、まとめでの到達度チェックでは、記入するための時間を十分に確保できなかったためか、未記入者が16%と多かった。改善点として、導入時の丁寧な説明と記入時間確保のための時間管理を徹底することが挙げられる。

### イ 「お悩み あるある」の改善

展開①で学習した基礎知識を生かし、「お悩み あるある」で例示された平面図を読み取る際、間取りを数字とアルファベットで表す問いに対して、33.8%の生徒が不正解であった。「3LDK」が正答のところ、「2LDK」と解答していた。生徒に聞き取りをしたところ、LDKの隣にある和室を個人の生活空間として捉えず、共同生活の空間として捉えたからだということが分かった。展開①の基礎知識の学習時に四つの生活空間（個人生活、共同生活、家事労働、生理衛生）は空間別に着色させたのであるが、導入時の到達度チェックで例示し

た一人暮らしの平面図においても四つの生活空間を着色させたり、展開②で例示した平面図も同様に着色させたりしてから間取りを問うと、生徒の理解度も上がるものと考えられる。しかし、1時間の授業内で着色させる時間を確保することは厳しい。今回は、想定以上に間取りの表記について不正解の生徒が多いと感じたため、検証授業の次の時間に、前述したように、一人暮らしの平面図においても空間別に着色をさせてみる改善を行った。その結果、生徒達の理解度を上げることができた。空間を用途別に着色すると作業を行うことや、事例を変えて空間の用途を繰り返し考えさせるという作業は、生徒の思考力を深めさせることができたと考えられる。空間を理解するために着色するという作業以外の方法も考え、生徒の理解度を上げるための工夫が必要だと感じた。

#### ウ 「やるやる 実践」の改善

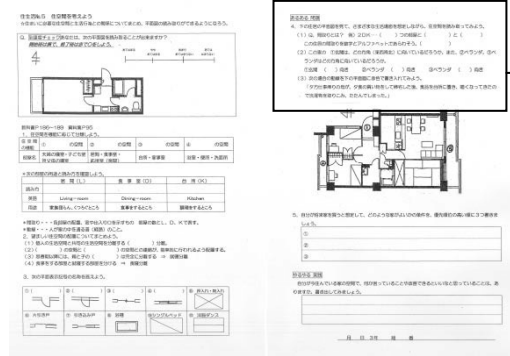
実践編の要である、「自分の家の住空間で、何か困っていることや改善したいと思っていることを書き出そう」という課題に対しては、質問が漠然とし過ぎたため、生徒が記入しにくかった。「自分や家族の生活を振り返り、住空間の課題を挙げ、学習したことをどのように生かしていきたいか」など、具体的な聞き方をし、ワークシートには、自身で工夫できることなどの記入を促し、生徒が解決策を考え、実践するように促す必要がある。

### (8) 成果と課題

到達度チェックを導入とまとめに入れることで、学習のねらいが明確になり、生徒に授業全体の見通しをもたせることができた。また、展開②の「お悩み あるある」では、展開①で学習した基礎知識を生かさなければならないこと、例示した平面図を読み取り、そこでの生活における課題を具体的に挙げさせ、具体的に解決を図らせる学習を取り入れることで思考力を育成することができた。また、自分が将来購入する住宅を想定する課題には、自身が求める条件として学んだ知識を活用し、今の生活と比べながら、具体的に記入することができていた。また、「解決策を構想する力」を育成する「やるやる 実践」にも円滑につなげることができた。住生活の中でも、本時の平面図を読み取る内容に関しては、近い将来一人暮らしをしてみたいという希望をもつ生徒が多いことや、実生活では、衣食住の中でもなかなか自由にできない内容のためか、将来への希望が強く、意欲的に学習に取り組む姿勢が具体的な記述からも読み取れた。仮説に基づく本時の目標はおおむね達成できたと考える。

課題としては、本校の生徒の学習への取組状況や理解度から考えると、今回の授業内容は1時間の設定では難しかった。生徒の授業に対する学ぶ意欲・関心が強い内容でもあるため、確実に知識・理解を深めさせたいという気持ちもあるが、実習として作業を行う内容については、時間の設定なども考え、様々な方法を考えておく必要があると思う。また、「やるやる 実践」の課題については、質問が漠然とし過ぎたためか、生徒が具体的に記入しにくかったと思われる。生徒が学んだ知識等を活用し、深く考え、考えた内容を表現しやすい具体的な聞き方については工夫が必要であり、ワークシートに生徒がより具体的に解決策を考えられるようにする。

<改善前のワークシート>



あるある 問題 (お悩み あるある)

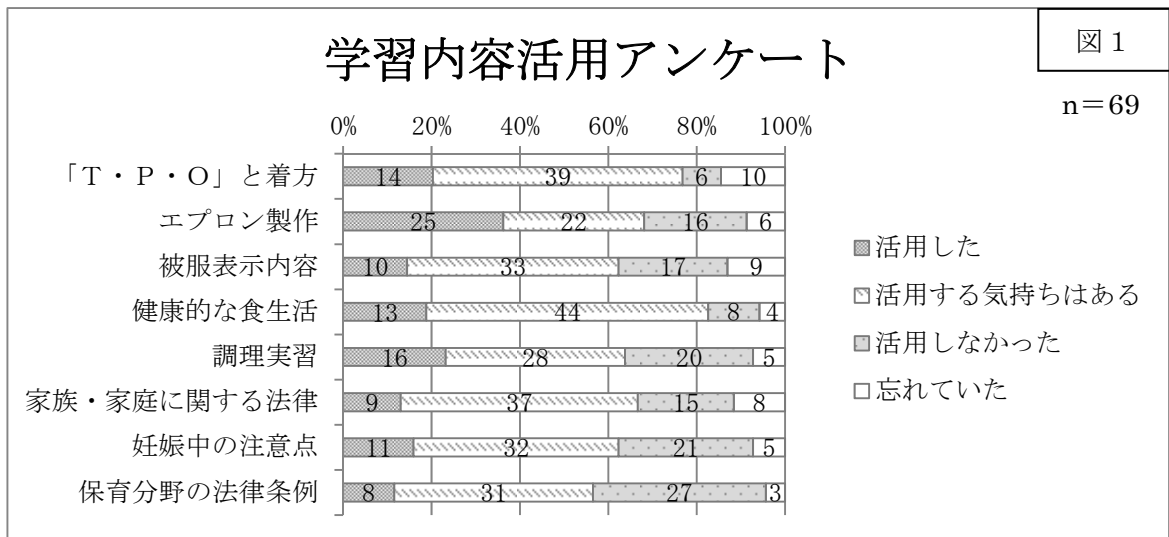
- 4 下の住居の平面図を見て、さまざまな生活場面を想定しながら、住空間を読み取ってみよう。
- (1) Q 間取りとは？例) 2DK・・・( )つの部屋と( )と( )  
この住居の間取りを数字とアルファベットであらわそう。( )
  - (2) この家の ①玄関は、どの方角(東西南北)に向いているだろうか。また、②ベランダ、③ベランダはどの方角に向いているだろうか。  
①玄関( )向き ②ベランダ( )向き ③ベランダ( )向き
  - (3) 次の場合の動線を下の平面図に赤色で書き入れてみよう。  
「夕方仕事帰りの母が、夕食の買い物をして帰宅した後、食品を台所に置き、暗くなってきたので洗濯物を取りこみ、たたんでしまった。」

改善後

あるある 問題 (お悩み あるある)

- 4 下の住居の平面図を見て、さまざまな生活場面を想定しながら、住空間を読み取ってみよう。
- (1) Q 間取りとは？例) 2DK・・・( )つの部屋と( )と( )  
この住居の間取りを数字とアルファベットであらわそう。( )
  - (2) この家の ①玄関は、どの方角(東西南北)に向いているだろうか。また、②ベランダ、③ベランダはどの方角に向いているだろうか。  
①玄関( )向き ②ベランダ( )向き ③ベランダ( )向き
  - (3) 次の場合の動線を下の平面図に赤色で書き入れてみよう。  
「夕方仕事帰りの母が、夕食の買い物をして帰宅した後、食品を台所に置き、暗くなってきたので洗濯物を取りこみ、たたんでしまった。」
  - (4) 4つの住空間に従って、プリント表の1で色分けした色を使って平面図をぬろう。

また、学習内容活用アンケートの結果は、次のとおりであった。(図1)



「T・P・O」と着方」から「保育分野の法律条例」までの8項目は、今年度の4月から夏季休業の前までに学習した内容である。この学習した内容を実際の生活において、「活用した」、「活用気持ちはある」、「活用しなかった」、「忘れていた」の4段階で生徒に夏季休業明けの9月にアンケートを実施した。

授業で学んだことを実生活で「活用した」割合が高いのは、衣生活や食生活における実習を伴う学習内容であった。「制服のボタンが取れたので自分で縫い付けた。」、「リュックの紐が取れそうだったので縫った。」、「実習で作った餃子やけんちんうどんを家で作って家族に食べてもらった。」、「栄養バランスを考え、表示を見て買うようになった。」など、具体的に活用している様子が伺える。実生活で活用しやすい学習内容は、生徒への促し方次第で、もっと活用する生徒を増やすことができるのではないかと考える。一方、法律に関すること、保育に関する学習では、「活用した」割合が低く、実生活ですぐに必要なとしないと考えられやすい領域への学習意欲を喚起する工夫が必要だと分かった。

## 実践事例2

科目名	家庭基礎	学年	1 学年
-----	------	----	------

### (1) 小単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

- ア 小単元名：第6章「衣生活をつくる」
- イ 使用教材：「家庭基礎 自立・共生・創造」
- ウ 副教材：「スーパーライブビュー」

### (2) 小単元(題材)の目標

- ・ 着衣、被服材料、被服の構成、被服製作、被服管理などについて理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・ 衣生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- ・ よりよい衣生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

### (3) 小単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着衣、被服材料、被服の構成、被服製作、被服計画、被服管理などについて科学的に理解し、安全と環境に配慮した衣生活を主体的に営むために必要な知識・技術を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着衣、被服材料、被服の構成、被服管理などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着衣、被服材料、被服構成、被服製作、被服管理などの衣生活の科学と文化に関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。</li> </ul>

**(4) 小単元（題材）の指導と評価の計画（4時間扱い）**

次	時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
			ア	イ	ウ	
第一次	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り扱い絵表示について知る。</li> <li>被服管理を考えた被服の購入の必要性について理解する。</li> </ul>	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>被服管理を考えた被服の購入について必要な知識・技術を身に付けているか。(ワークシート)</li> <li>学習した知識をもとに、今後どのように被服購入していきたいか考え、表現しているか。(ワークシート)</li> </ul>
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の機能を理解する。</li> <li>繊維の種類や特徴についてのDVDを視聴する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の機能と繊維の特徴について理解することができたか。(ワークシート)</li> <li>被服の機能に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいるか。(ワークシート)</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭洗濯と商業洗濯の特徴について知る。</li> <li>洗剤の働きを科学的に理解する。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯方法の特徴について理解することができたか。(ワークシート)</li> <li>実験結果から洗剤の働きを読み取ることや、他者の意見を聞き、自分の意見を発表することができたか。(ワークシート)</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>TPOを考えた着装について考える。</li> <li>安全と環境に配慮した衣生活のために自分ができることを考える。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>TPOに応じた着装、安全と環境に配慮した衣生活についての知識・技術を身に付けることができたか。(ワークシート)</li> <li>自分の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考・判断し、表現できたか。(ワークシート)</li> <li>主体的に意欲をもって取り組むことができたか。(ワークシート)</li> </ul>

**(5) 本時(全4時間中の1時間目)**

ア 本時の目標

(ア) 取り扱い絵表示について理解する。

(イ) 被服管理を考えた被服の購入ができる。

イ 仮説に基づく本時のねらい

「お悩み あるある」では、デザインは同じようだが値段や取り扱い方法が異なる2種類のセーターの購入選択をさせる例題とし、知識を活用し、管理や手間を考えた被服の購入について考えることで思考力の育成を図る。

「やるやる 実践」では、自分の衣生活を振り返り、課題に気付かせ、管理や手間を考えた被服の購入ができる力を習得させる。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習目標を理解する。</li> <li>不適切な取り扱いをした被服の写真から、被服管理を考えた被服の購入について学習することを理解する。</li> </ul> <p><b>到達度チェック（発問）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取り扱い絵表示の例から情報を読み取り、被服管理を考えた被服の購入ができるか、現在の自分の衣生活に対する到達度を理解する。</li> <li>到達度4段階のどの段階であったか挙手する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションソフトを活用して、本時の学習目標を示す。</li> <li>写真を見せることで気付きと学習意欲を喚起する。</li> <li>ワークシートは展開①で扱う問題の解答が書いてあるため、この段階では配布しない。そのため、現在の自分の到達度を挙手させることで印象付け、授業のまとめの際に、導入時の到達度チェックを確実に記入させるようにする。</li> </ul>	
展開 ① 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り扱い絵表示を理解する意義について理解する。</li> </ul> <p>&lt;グループワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班になり、五つの問題について考えて発表する。</li> <li>取り扱い絵表示の説明文からあてはまる取り扱い絵表示を選び、取り扱い絵表示から説明文を考え、班ごとに発表する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>取り扱い絵表示の基本記号について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイントに班で取り組む問題を示す。</li> <li>記入用紙とペンを各班へ配布し、計時する。</li> <li>班で考えた取り扱い絵表示やその説明を黒板に貼り、様々な意見があることを知らせた後、正しいものを示すことで絵表示とその意味について理解させる。</li> <li>基本記号と取り扱い絵表示のポイントを示す。</li> </ul>	イ・ウ 取り扱い絵表示に関する問題について解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現しているか、また、関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいるかを観察、ワークシートの記述の分析
展開 ② 15分	<p><b>お悩み あるある</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見た目は同じでも値段や家庭での洗濯の可否に違いがある2種類のセーターの購入を例示し、どちらを選ぶか考え、理由をワークシートに記入する。</li> <li>どちらのセーターを選んだか挙手する。</li> </ul> <p><b>やるやる 実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習をどのように活用していくか記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習前であれば、多くの生徒が安いセーターを選んだであろうことに気付かせる。知識・理解を深めることが賢い衣生活を送るための選択肢を広げることに気付かせる。</li> <li>自分の課題を見付け、取り扱い絵表示についての学習内容を、今後どのように活用していくのか考えさせる。</li> </ul>	イ・ウ 取り扱い絵表示に関する問題について解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現しているか、ワークシートの記述の分析
まとめ 5分	<p><b>到達度チェック（振り返り）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入時の学習到達度（発問）と現在の学習到達度を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習前と学習後の学習到達度に丸を付けさせる。</li> </ul>	ア・イ ワークシートの記述内容



## (6) 本時の振り返り

### ア 到達度チェック

3クラス(57名)の生徒のうち、「取り扱い絵表示を活用して、被服を購入することができますか」の問いに対し、「到達度チェック(発問)」に「購入できる」、「やや購入できる」と回答した割合は17.5%であったが、「到達度チェック(振り返り)」では94.7%に向上した。開始時に本時の学習目標を明確に示し、生徒の学習意欲を高めるとともに、授業後に自らの学びの到達度を振り返らせることで理解度感じさせる効果については、授業後に生徒に行った聞き取りにおいても確認することができた。

### イ 「お悩み あるある」…値段と家庭での洗濯可否に違いのあるセーターの比較

91%の生徒がBの「価格は高いが家庭での洗濯もできるセーター」を選んだ。学習前であれば、Aの価格の安い方を安易に選ぶことも考えられるが、Bの選択肢を選ぶ生徒が大半であったことを考えると学習の成果は大きい。Aを選んだ生徒の場合にも、「家庭での洗濯はできなくともクリーニングに出す頻度は少ないため費用は高くない」などと考えた上での購入判断であることを説明することができている。

### ウ 「やるやる 実践」

自分の衣生活を振り返り、取り扱い絵表示を参考に被服管理を考えていきたいという記述が多く見られた。また、着用している自分の衣服の表示を見る姿が多く見られ、今まで不適切な取り扱い方法をしていたという声が多数挙がった。購入時に取扱い絵表示を確認するだけでなく、既に持っている衣服の取り扱いにも配慮しなければならないことに気付かせることができ、被服管理についての関心を高めることができた。

### エ その他(展開①)

班活動への意欲は非常に高い。各自が班で取扱い絵表示について考え、意見を出し合い、他の班の意見にも関心を寄せている。2分以内で考えさせたため、テンポよく学習が進み、効果的に取り扱い絵表示について理解させることができた。

## (7) 「到達度チェック」、「お悩み あるある」、「やるやる 実践」の改善について

授業改善前の「到達度チェック(発問)」は「取り扱い絵表示を活用して被服を購入することができますか」であったが、授業改善後は自分の生活に置き換えて考えやすくするため「管理や手間を考えて被服を購入することができますか」とした。改善後の後者で聞いた場合、取り扱い絵表示を覚えており、正しく理解していなければ答えにくいという内容ではなく、取扱い絵表示を読み取り、その活用を意識した答え方でよいため、到達度チェック(発問)に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒の割合は改善前5.5%(2クラス38名)から改善後42.1%(1クラス19名)に上がった(表2)。

到達度チェックで、「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した割合(表2)

改善前発問(取り扱い絵表示を活用して…)		改善後発問(管理や手間を考えて…)	
導入(発問)	まとめ(振り返り)	導入(発問)	まとめ(振り返り)
5.5%	100%	42.1%	97.2%

(8) 成果と課題

価格やデザインだけで購入するのではなく、被服管理やその手間を考えた被服の購入ができることを学習目標に設定し、到達度チェックにおける発問についても内容や表現を再検討した。しかし、本時のねらいに取扱い絵表示の理解と被服管理を考えた被服購入の2点を挙げており、取り扱い絵表示について理解できていない現状に気付かせることよっての意欲の向上には、改善前の発問である「取り扱い絵表示を活用して被服を購入することができますか」の方が適していたと考える。導入とまとめの到達度の変化は大きい方が生徒自身も授業で得られた成果を感じやすいと考えられるため、発問の仕方や内容は、とても重要である。発問が変われば、生徒の到達度が変わる可能性がある。そのため、学習のねらいを明確にし、ねらいを達成するのに最も効果的な発問を検討していくことが必要である。

また、ワークシートにおいては、到達度チェックの記入の仕方や生徒自身が解決策を考える例題の設定については、更なる工夫が必要であると感じる。


<授業で使用したスライドが入ったワークシート>

管理や手間を考えて  
トータルコストで被服の購入考えよう♪  
この服がすぐ気に入った!!

デザイン以外にどんなことに気をつけて買えばいい??

取り扱い絵表示を活用して被服を購入することができますか?


**毛 100%**



洗濯に使う薬品がすすぎすぎます。洗剤量は適量か1/2に減らして洗濯で申しせしめて下さい。  
乾燥機には使用はお避け下さい。  
スチームで干しながらアイロンをおかけ下さい。


年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_ no.19 の資料

記号の条件か、さらに弱い条件で洗う!  
線(一)が増えるほど弱い!

(例) 

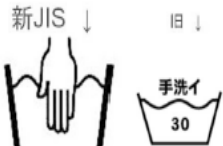
強 ←————→ 弱

「・」が増えると 高温! 数字は 上限温度

(例) 





洗い方  
40度を限度とし、手洗いによる洗濯可。

新JIS ↓ 旧 ↓



塩素系漂白剤による漂白ができる

新JIS ↓ 旧 ↓



○酸素系    
 ○塩素系  

○酸素系のみ (塩素系はX)

A 同じような見た目のセーター。どっちを選ぶ? 家庭での洗濯

**毛 100%**

クリーニングネットを使用して下さい  
タンブラー乾燥はお避け下さい



 

¥3,000 ← クリーニング代 1回¥400円

B 同じような見た目のセーター。どっちを選ぶ? 家庭での洗濯

**毛 100%**

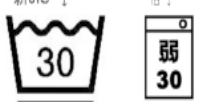
クリーニングネットを使用して下さい  
タンブラー乾燥はお避け下さい

¥4,000


洗い方  
液温30℃を限度とし、洗濯機の弱流水または弱い手洗いがよい。

新JIS ↓ 旧 ↓




日陰で平干しがよい

新JIS ↓ 旧 ↓



アイロンは200℃を限度とし、高い温度でかける。


新JIS ↓ 旧 ↓



↑ 原形は当て布

基本記号は5種類!

洗濯 漂白 乾燥 アイロンかけ クリーニング



お悩みあるある

AとB、どちらのセーターを選びますか?

↓

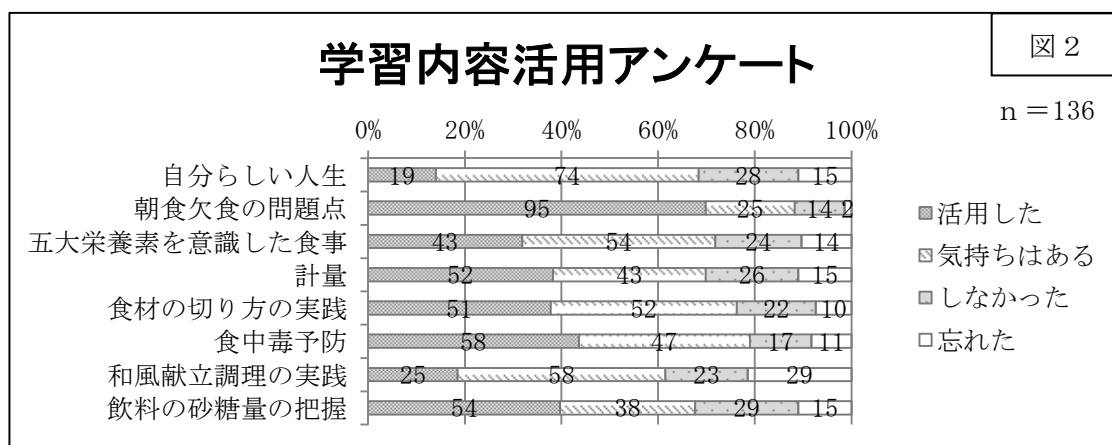
理由

やるやる!! 自分の課題をあげ、今回の学習を生活にどのように活かしていきたいか記入しよう。

学習到達度チェック 管理や手間を考えた被服の購入をすることができますか。○をつけましょう。

4できる!	3いい!	2あまりできない!	1できない!

また、学習内容活用アンケートの結果は以下のとおりであった（図2）。



各項目で取り扱った時間数が違い、DVDによる学習、調理実習等、学習内容の知識・理解の深め方にも違いがある。学習の条件を揃えられていないためなのか、授業前の関心の高さに差があるために知識の定着度に差がでたのかは定かではない。学習前、学習後、数か月後でその都度アンケートや考査を行い、学習内容の定着度を調べることにより、授業での学習成果を捉えることができると考えられる。

朝食欠食についての学習を「活用した」、「活用したい」と回答した割合が非常に高い。朝食欠食の改善は生徒にとって取り組みやすい内容だったのか、それとも朝食欠食と学力の関係に心を動かされたのかは定かではないが、他の項目と比較し、肯定的な回答の割合が高くなっている。

和食献立の調理については「活用した」と回答した割合が他の項目に比べ20%以下と低い。しかし、「機会はなかったが活用したい」と回答した割合は40%以上である。調理実習で作ったものを家庭で再調理する課題を意図的に設定すれば、確実にこの項目の活用度を高めることができると考えられる。他の項目についても、授業後に何らかの振り返りを継続して行うことで活用度は高められると考えられる。

学習内容の定着や活用を問うアンケートを実施したことにより、学習内容の定着や生活での活用につながっていない項目を把握することができた。取り扱う時間数や授業方法を再検討し、振り返りを継続して行うことで、生徒の学習効果を高められると考えられる。

### 実践事例3

科目名	家庭総合	学年	2、3学年
-----	------	----	-------

#### (1) 小単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 小単元名：第6章 食生活をつくる
- イ 教科書：「家庭総合 自立・共生・創造」
- ウ 副教材：「家庭総合 自立・共生・創造 学習書」

## (2) 小単元（題材）の目標

- ・栄養、食品、調理及び食品衛生などについて理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- ・よりよい食生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## (3) 小単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解し、安全と環境に配慮した食生活を主体的に営むために必要な知識を身に付けている。</li> <li>・主体的に食生活を営むために必要な技術を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養、食品、調理及び食品衛生などについて課題を見だし、その解決を目ざして思考を深め、適切に判断し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養、食品、調理及び食品衛生などの食生活の科学と文化、安全と環境に配慮した食生活に関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。</li> </ul>

## (4) 小単元（題材）の指導と評価の計画（4時間扱い）

次	時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
			ア	イ	ウ	
第一次	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の食生活の特徴や健康との関わり、食事摂取基準などについて理解する。</li> <li>・自らの食生活を振り返り、食事バランスガイドを活用して、食生活の管理運営能力を身に付ける。</li> </ul>	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養、食品、健康と食との関わりを科学的に理解することができたか。(ワークシート)</li> <li>・自らの食生活に課題を見だし、解決策を考え、表現しているか。(ワークシート)</li> <li>・食生活に関心をもち、意欲をもって取り組んでいるか。(ワークシート)</li> </ul>
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品添加物の使用目的や平均摂取量を理解する。</li> <li>・亜硝酸塩検出などの実験を通じて食品添加物の特徴を知り、自分の食生活との関わりについて考える。</li> </ul>	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品添加物の現状を理解することで、食の安全について理解できたか。(ワークシート)</li> <li>・実験に意欲をもって取り組んでいるか。(ワークシート)</li> <li>・実験で気付いたことを生活にどのように活用するか、思考・判断できたか。(ワークシート)</li> </ul>
第三次	3・4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他国の伝統食調理を通じて、食と各国固有の文化とのつながりや、食の歴史、風習の違いについて理解する。</li> <li>・調理実習で基本的な調理技術を身に付けるとともに、他者と協力して食事の準備、試食する楽しみを体験する。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲をもって実習に参加し、調理工程の理解や、調理技術を身に付けることができたか。(ワークシート)</li> <li>・基礎的な調理方法や自他国の食文化を理解しすることができたか。(ワークシート)</li> </ul>

**(5) 本時（全4時間中の1時間目）**

ア 本時の目標

(7) 現代の食生活の傾向と問題点について考えさせるとともに、毎日の食事が健康と深く関わっていることを理解する。

(イ) 自分の食生活を振り返り、健康に資する食生活の管理運営ができるようにする。

イ 仮説に基づく本時のねらい

「お悩み あるある」では、食事バランスガイドを用いて友人の食生活に対するアドバイスを考える例題に取り組みせ、1日の食事の栄養バランスを整える方法を理解させる。

「やるやる 実践」では、自らの食生活を振り返り理想的なバランスに整える例題に取り組みせ、実生活において健康に資する食生活の管理運営ができる力を習得させる。

ウ 本時の展開<改善後>

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 2分	<b>到達度チェック（発問）</b> ・本時の学習目標を理解するとともに、現在の自分の食生活に対する到達度を理解する。	・「授業の最後には、自分が何をどれくらい食べればよいか分かるようにしよう。」と目標への到達意欲を喚起する。	
展開 ① 25分	<b>お悩み あるある</b> ・例題に取り組むことで現代の食生活課題について考える。 ・健康な生活に必要なとされる食事や栄養、食品について、現代の課題や欠乏時の危険性ととも理解する。 ・性別、年齢、身体活動レベルから、1日に必要なエネルギー量と摂取の目安を選び出し、自分の生活にあったバランスコマの大きさを知る。 ・簡易に生活に取り入れられる指針として食事バランスガイドを取り上げ、例題「お悩み あるある」の改善策を考える。  <グループワーク> ・Aさんへのアドバイスを考え、班内で読み合い、他者の意見で良いところを記述する。	・復習できるように資料の掲載場所を示す。 ・プレゼンテーションソフトを用いて食品の選び方を解説する。 ・個別に必要な量が異なること、例題では活動レベルを「高い」で考えることを説明する。  ・食事バランスガイドの説明は、例題の解説（食事の改善例）と兼ねて行う。 ・メニューと目安量を別資料で配布し理解を深める。  ・用紙記入前にグループワークの説明を行い、班内で供覧しあうことを伝える。	ア・必要摂取量を正しく理解できているかをワークシートの記述を分析  イ・食生活改善のポイントを押さえて、アドバイスを考えることができたか、ワークシートの記述を分析  ウ・グループワークに参加できているか、行動の観察
展開 ② 15分	<b>やるやる 実践</b> ・昨日一日の自分の食事内容を振り返り、バランスゴマに色を塗る。 ・目安量と比べて、過不足を考える。 ・理想の目安量となるように、増やすもの、減らすものを赤色で追加記入し、バランスゴマを完成させる。 ・明日からの食事で心掛けることを具体的に考えて記述する。	・カロリーのあるものは全て記入するよう呼びかける。 ・実際の生活で取り入れやすい調達方法（調理、購入）やメニュー（嗜好）、量を考えさせる。  ・取り入れやすいこと、緊急性の高いことから取り組むように促す。	イ・自分の食生活における課題を見だし、その解決を目標として思考を深め、適切に判断し、表現しているかをワークシートの記述を分析

まとめ	<b>到達度チェック (振り返り)</b> ・開始時と同じチェック表に到達度を記入し、到達度を理解する。 ・出席票に必要事項を記入して提出する。	・知識を実生活で活用することの重要性に気付かせる。 ・一人ずつ出席票を回収しながら、ワークシートの記入状況を確認する。	ウ・意欲をもって学習に参加することができたかをワークシートの記述を分析
-----	--	--	-------------------------------------

## (6) 本時の振り返り

### ア 到達度チェック

授業導入時に「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した割合は48.6%であったが、まとめ時には94.6%に向上した。授業後に生徒に行った聞き取りにおいて、導入時に学習目標を明確に示されることで生徒の学習意欲が高まること、まとめ時に到達度を振り返ることで達成感を得られることが確認できた。

### イ 「お悩み あるある」

例題では、身近な問題を切り口とし問題形式としたため、食事バランスの理解も集中して取り組んでいた。食生活に課題意識をもつ友人にどのようにアドバイスをするかを考えさせる場面では、各自自分の言葉で工夫して表現し、具体的な内容を記述できていた。また、ワークシートを交換して他者の良いアドバイスを読むことで、具体的なアドバイスの方法や、相手を思いやった言い返し方法などが挙げられていた。

### ウ 「やるやる 実践」

例題で追加メニューの選び方などを解説していることから、主食・副菜・主菜などの分類や選択がスムーズに行えていた。身体活動レベル別のコマを印刷したことで、各自に合わせた必要量が選択しやすくなった。

### <改善前プリント>

家庭総合 ( 月 日 ) \_\_\_\_\_ 年 組 氏名 \_\_\_\_\_

**改善前** 食事バランスガイド

◆到達度チェック◆ 開始時は黒色で、終了時は赤色で丸をしましょう。

> 「何を」「どれくらい」食べればいいのかを意識して、  
食事を摂ることができる。

例題「お悩み あるある」 ～Aさんの食事、何が問題?～

Aさんの食事内容(全てコンビニ)

朝:おにぎり2個 昼:カップラーメンとパン1個

夕食:スタック、炭酸飲料 夜:ありのバス。

Aさんの食事、何が問題だと思いますか? (一言で書くと...)

例題「お悩み あるある」 ～Aさんの食事、何が問題?～

Aさんの食事内容(全てコンビニ)

朝:おにぎり2個 昼:カップラーメンとパン1個

夕食:スタック、炭酸飲料 夜:ありのバス。

Aさんの食事、何が問題だと思いますか?

1. 食生活について考える (旧教科書はマイナス6頁、学習書の頁数は変更なし)

a) 5大栄養素: 教p.136①  
 b) 栄養素等摂取量の年次推移、年代別の野菜摂取量: 教p.133②、④  
 c) 肥満、痩せ(低体重): 教p.134 無機質、ビタミンの欠乏症: 教p.143, 教p.144  
 d) 食事摂取基準 (1) 教p.151④、食品群別摂取量 (2) 教p.153②

2. 食事バランスガイド (教科書p.152②、学習書p.103)

⇒農林水産省IP「みんなの食育」[http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/minna\\_navi/index.html](http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/minna_navi/index.html)  
 学p.103 食事バランスガイドのみかた

◆菓子・嗜好飲料は (a) /日が目安

Aさんの食事は...

主食	1	2	3	4	5	6	7
副菜	1	2	3	4	5	6	
主菜	1	2	3	4	5		
菓子・嗜好飲料	1	2	3	4	5	6	7

Aさんの食事バランスを整えるために加えるもの

朝:おにぎり2個	昼:カップラーメンとパン1個	夜:ありのバス。	夕食:スタック、炭酸飲料
----------	----------------	----------	--------------

Aさんへのアドバイス

他の人のアドバイスで良いと思ったところ。

### <改善後プリント>

家庭総合 ( 月 日 ) \_\_\_\_\_ 年 組 氏名 \_\_\_\_\_

**改善後** 食事バランスガイド

◆到達度チェック◆ 開始時は黒色で、終了時は赤色で丸をしましょう。

> 「何を」「どれくらい」食べればいいのかを意識して、  
食事を摂ることができる。

例題「お悩み あるある」 ～Aさんの食事、何が問題?～

Aさんの食事内容(全てコンビニ)

朝:おにぎり2個 昼:カップラーメンとパン1個

夕食:スタック、炭酸飲料 夜:ありのバス。

Aさんの食事、何が問題だと思いますか?

1. 食と健康の関係 (旧教科書はマイナス6頁、学習書の頁数は変更なし)

a) 5大栄養素: 炭水化物・脂質→エネルギー、たんぱく質、無機質→( )を作る、ビタミン→機能調整 教p.136①  
 b) 栄養素等摂取量の年次推移、年代別の野菜摂取量: 教p.133②、④  
 c) 肥満、痩せ(低体重): 教p.134、無機質、ビタミンの( )症 教p.143, 教p.144  
 d) 食事摂取基準: 栄養素の必要量 p.151④、食品群別摂取量 ( ) の必要量 教p.153②

2. 食事バランスガイド (教科書p.152②、学習書p.103)

a) 教p.150② 身体活動レベル別に見た活動内容⇒自分の活動レベルは [ 低い・普通・高い ]  
 b) 1日に必要なエネルギー量と摂取の目安 ⇒ [ A・B・C ]

	メニュー(料理名)	主食	副菜	主菜	牛乳・乳製品	果実
Aさんの食事バランスガイド	朝(おにぎり2個)					
	4:3 4:3 4:3 4:3 4:3 4:3 4:3 4:3 4:3 4:3					
	5:7 ヨーグルト					
	6:2 フォアグラメン					
	7:4 7:4 7:4 7:4 7:4 7:4 7:4 7:4 7:4 7:4					
	8:2 8:2 8:2 8:2 8:2 8:2 8:2 8:2 8:2 8:2					
	9:5 9:5 9:5 9:5 9:5 9:5 9:5 9:5 9:5 9:5					
	10:1 10:1 10:1 10:1 10:1 10:1 10:1 10:1 10:1 10:1					
	11:6 11:6 11:6 11:6 11:6 11:6 11:6 11:6 11:6 11:6					
	12:2 12:2 12:2 12:2 12:2 12:2 12:2 12:2 12:2 12:2					
13:7 13:7 13:7 13:7 13:7 13:7 13:7 13:7 13:7 13:7						
14:3 14:3 14:3 14:3 14:3 14:3 14:3 14:3 14:3 14:3						
15:8 15:8 15:8 15:8 15:8 15:8 15:8 15:8 15:8 15:8						
16:4 16:4 16:4 16:4 16:4 16:4 16:4 16:4 16:4 16:4						
17:9 17:9 17:9 17:9 17:9 17:9 17:9 17:9 17:9 17:9						
18:5 18:5 18:5 18:5 18:5 18:5 18:5 18:5 18:5 18:5						
19:0 19:0 19:0 19:0 19:0 19:0 19:0 19:0 19:0 19:0						
20:6 20:6 20:6 20:6 20:6 20:6 20:6 20:6 20:6 20:6						
21:2 21:2 21:2 21:2 21:2 21:2 21:2 21:2 21:2 21:2						
22:7 22:7 22:7 22:7 22:7 22:7 22:7 22:7 22:7 22:7						
23:3 23:3 23:3 23:3 23:3 23:3 23:3 23:3 23:3 23:3						
24:8 24:8 24:8 24:8 24:8 24:8 24:8 24:8 24:8 24:8						
25:4 25:4 25:4 25:4 25:4 25:4 25:4 25:4 25:4 25:4						
26:9 26:9 26:9 26:9 26:9 26:9 26:9 26:9 26:9 26:9						
27:5 27:5 27:5 27:5 27:5 27:5 27:5 27:5 27:5 27:5						
28:0 28:0 28:0 28:0 28:0 28:0 28:0 28:0 28:0 28:0						
29:6 29:6 29:6 29:6 29:6 29:6 29:6 29:6 29:6 29:6						
30:2 30:2 30:2 30:2 30:2 30:2 30:2 30:2 30:2 30:2						
31:7 31:7 31:7 31:7 31:7 31:7 31:7 31:7 31:7 31:7						
32:3 32:3 32:3 32:3 32:3 32:3 32:3 32:3 32:3 32:3						
33:8 33:8 33:8 33:8 33:8 33:8 33:8 33:8 33:8 33:8						
34:4 34:4 34:4 34:4 34:4 34:4 34:4 34:4 34:4 34:4						
35:9 35:9 35:9 35:9 35:9 35:9 35:9 35:9 35:9 35:9						
36:5 36:5 36:5 36:5 36:5 36:5 36:5 36:5 36:5 36:5						
37:0 37:0 37:0 37:0 37:0 37:0 37:0 37:0 37:0 37:0						
38:6 38:6 38:6 38:6 38:6 38:6 38:6 38:6 38:6 38:6						
39:2 39:2 39:2 39:2 39:2 39:2 39:2 39:2 39:2 39:2						
40:7 40:7 40:7 40:7 40:7 40:7 40:7 40:7 40:7 40:7						
41:3 41:3 41:3 41:3 41:3 41:3 41:3 41:3 41:3 41:3						
42:8 42:8 42:8 42:8 42:8 42:8 42:8 42:8 42:8 42:8						
43:4 43:4 43:4 43:4 43:4 43:4 43:4 43:4 43:4 43:4						
44:9 44:9 44:9 44:9 44:9 44:9 44:9 44:9 44:9 44:9						
45:5 45:5 45:5 45:5 45:5 45:5 45:5 45:5 45:5 45:5						
46:0 46:0 46:0 46:0 46:0 46:0 46:0 46:0 46:0 46:0						
47:6 47:6 47:6 47:6 47:6 47:6 47:6 47:6 47:6 47:6						
48:2 48:2 48:2 48:2 48:2 48:2 48:2 48:2 48:2 48:2						
49:7 49:7 49:7 49:7 49:7 49:7 49:7 49:7 49:7 49:7						
50:3 50:3 50:3 50:3 50:3 50:3 50:3 50:3 50:3 50:3						
51:8 51:8 51:8 51:8 51:8 51:8 51:8 51:8 51:8 51:8						
52:4 52:4 52:4 52:4 52:4 52:4 52:4 52:4 52:4 52:4						
53:9 53:9 53:9 53:9 53:9 53:9 53:9 53:9 53:9 53:9						
54:5 54:5 54:5 54:5 54:5 54:5 54:5 54:5 54:5 54:5						
55:0 55:0 55:0 55:0 55:0 55:0 55:0 55:0 55:0 55:0						
56:6 56:6 56:6 56:6 56:6 56:6 56:6 56:6 56:6 56:6						
57:2 57:2 57:2 57:2 57:2 57:2 57:2 57:2 57:2 57:2						
58:7 58:7 58:7 58:7 58:7 58:7 58:7 58:7 58:7 58:7						
59:3 59:3 59:3 59:3 59:3 59:3 59:3 59:3 59:3 59:3						
60:8 60:8 60:8 60:8 60:8 60:8 60:8 60:8 60:8 60:8						
61:4 61:4 61:4 61:4 61:4 61:4 61:4 61:4 61:4 61:4						
62:9 62:9 62:9 62:9 62:9 62:9 62:9 62:9 62:9 62:9						
63:5 63:5 63:5 63:5 63:5 63:5 63:5 63:5 63:5 63:5						
64:0 64:0 64:0 64:0 64:0 64:0 64:0 64:0 64:0 64:0						
65:6 65:6 65:6 65:6 65:6 65:6 65:6 65:6 65:6 65:6						
66:2 66:2 66:2 66:2 66:2 66:2 66:2 66:2 66:2 66:2						
67:7 67:7 67:7 67:7 67:7 67:7 67:7 67:7 67:7 67:7						
68:3 68:3 68:3 68:3 68:3 68:3 68:3 68:3 68:3 68:3						
69:8 69:8 69:8 69:8 69:8 69:8 69:8 69:8 69:8 69:8						
70:4 70:4 70:4 70:4 70:4 70:4 70:4 70:4 70:4 70:4						
71:9 71:9 71:9 71:9 71:9 71:9 71:9 71:9 71:9 71:9						
72:5 72:5 72:5 72:5 72:5 72:5 72:5 72:5 72:5 72:5						
73:0 73:0 73:0 73:0 73:0 73:0 73:0 73:0 73:0 73:0						
74:6 74:6 74:6 74:6 74:6 74:6 74:6 74:6 74:6 74:6						
75:2 75:2 75:2 75:2 75:2 75:2 75:2 75:2 75:2 75:2						
76:7 76:7 76:7 76:7 76:7 76:7 76:7 76:7 76:7 76:7						
77:3 77:3 77:3 77:3 77:3 77:3 77:3 77:3 77:3 77:3						
78:8 78:8 78:8 78:8 78:8 78:8 78:8 78:8 78:8 78:8						
79:4 79:4 79:4 79:4 79:4 79:4 79:4 79:4 79:4 79:4						
80:9 80:9 80:9 80:9 80:9 80:9 80:9 80:9 80:9 80:9						
81:5 81:5 81:5 81:5 81:5 81:5 81:5 81:5 81:5 81:5						
82:0 82:0 82:0 82:0 82:0 82:0 82:0 82:0 82:0 82:0						
83:6 83:6 83:6 83:6 83:6 83:6 83:6 83:6 83:6 83:6						
84:2 84:2 84:2 84:2 84:2 84:2 84:2 84:2 84:2 84:2						
85:7 85:7 85:7 85:7 85:7 85:7 85:7 85:7 85:7 85:7						
86:3 86:3 86:3 86:3 86:3 86:3 86:3 86:3 86:3 86:3						
87:8 87:8 87:8 87:8 87:8 87:8 87:8 87:8 87:8 87:8						
88:4 88:4 88:4 88:4 88:4 88:4 88:4 88:4 88:4 88:4						
89:9 89:9 89:9 89:9 89:9 89:9 89:9 89:9 89:9 89:9						
90:5 90:5 90:5 90:5 90:5 90:5 90:5 90:5 90:5 90:5						
91:0 91:0 91:0 91:0 91:0 91:0 91:0 91:0 91:0 91:0						
92:6 92:6 92:6 92:6 92:6 92:6 92:6 92:6 92:6 92:6						
93:2 93:2 93:2 93:2 93:2 93:2 93:2 93:2 93:2 93:2						
94:7 94:7 94:7 94:7 94:7 94:7 94:7 94:7 94:7 94:7						
95:3 95:3 95:3 95:3 95:3 95:3 95:3 95:3 95:3 95:3						
96:8 96:8 96:8 96:8 96:8 96:8 96:8 96:8 96:8 96:8						
97:4 97:4 97:4 97:4 97:4 97:4 97:4 97:4 97:4 97:4						
98:9 98:9 98:9 98:9 98:9 98:9 98:9 98:9 98:9 98:9						
99:5 99:5 99:5 99:5 99:5 99:5 99:5 99:5 99:5 99:5						
100:0 100:0 100:0 100:0 100:0 100:0 100:0 100:0 100:0 100:0						

◆菓子・嗜好飲料は 1日(4) kcal が目安

Aさんへのアドバイス

他の人のアドバイスで良いと思ったところ。

3. 自分の食生活をチェック

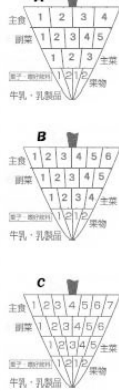
- a) 教p.150②身体活動レベル別に見た活動内容⇒自分の活動レベルは [ 低い・普通・高い ]  
 b) 1日に必要なエネルギー量と各種の目安 ⇒下表のA～Cに丸をしましょう。

活動レベル	エネルギー量 (kcal)	目安A	目安B	目安C
低い	1800	(4)	(3)	(2)
普通	2000	(6)	(4)	(3)
高い	2200	(7)	(5)	(4)

Q. 昨日一日の食事内容を思い出してみよう。(メニューのみでOK、カロリーのある飲み物も。)

メニュー (料理名)	主食	副菜	主菜	牛乳・乳製品	果菜
朝食					
昼食					
夕食					
間食					
合計					

目安量 ( ) ( ) ( ) ( ) ( )



「やるやる 実践」～明日からの食事で心がけたいことは？～

⇒最初の◆到達度チェック◆に、今度は赤色で丸をしてみましょう。

3. 自分の食生活をチェック 「やるやる 実践」

Q. 昨日一日の食事内容を思い出してみよう。(メニューのみでOK、カロリーのある飲み物も。)

メニュー (料理名)	主食	副菜	主菜	牛乳・乳製品	果菜
朝食					
昼食					
夕食					
間食					
合計					

目安量 A 4～5 5～6 3～4 2 2  
 B 5～7 5～6 3～5 2 2  
 C 6～8 6～7 3～6 2～3 2～3

①昨日の食事→主食・副菜・主菜などの数値→コマを塗る→合計値を出す  
 ※日量より…多いもの < , 少ないもの >

②赤ペンで、多すぎるものは減らし、少ないものは追加する→コマを塗る

今日の作業で分かったことを書きましょう。

「やるやる 実践」～明日からの食事で心がけたいことは、なんですか？～

⇒最初の◆到達度チェック◆に、今度は赤色で丸をしてみましょう。

「2 食事バランスガイド」で使用する記入表を、その次に作業する「3 自分の食生活をチェック」(「やるやる 実践」の内容)と同じものにすることで、生徒の作業がスムーズに進んだ。

(7) 「到達度チェック」、「お悩み あるある」、「やるやる 実践」の改善について

ア 到達度チェックの改善

ワークシート回収時に記入の声掛けを徹底することで、記入漏れをなくすことができた。改善後の授業導入時 44.7%、まとめ時 93.6%と、改善前と比較して数値の上では若干の低下が見られたが、改善前の記入漏れが53人中16人いることが分かり、授業導入における最初の指示の重要性を再確認することができた(表3)。

到達度チェックで、「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した割合(表3)

改善前		改善後	
導入	まとめ	導入	まとめ
48.6%	94.6%	44.7%	93.6%

イ 「お悩み あるある」の改善

改善前は時間配分に対して活動内容が多すぎたため、プレゼンテーションソフトを活用し、ICTで示す資料を精選する必要が生じた。具体的には、食事バランスガイドの解説を「お悩み あるある」の例題で行い、時間短縮を図った。また、この例題で使用する記入表と実践編で取り組む課題の記入表の形式を揃えるとともに、一つ一つの記入表にある項目の記入の仕方はより具体的に解説するようにしたことで、生徒がスムーズに実践課題に取り組めるようにした。

改善後は展開①が想定時間内に収まった他、記入表の形式を揃えたことで、改善前に見られた展開②での記入の仕方に関する質問を大幅に減らすことができた。

ウ 「やるやる 実践」の改善

実践編の要である、「明日からの食事で心がけたいこと」という課題に対しては、「食事のバランスを整えたい」といった漠然とした回答が多かった。そこで、実践編の取組をスモー

ルステップに分解する改善を行った。

考える工程を具体的にワークシートに記載し、目安量との比較結果の記入欄を設けることで、生徒が授業に取り組みやすく、論理的に理解しやすい構成にした。その結果、改善前と比べて「朝、1品でも副菜を食べるようにする」、「昼食で主菜・副菜を取る」、「乳製品を全くとっていないので、朝のヨーグルトを習慣にする」、「主食が多すぎるのでこれからは減らして、その分おかずを食べるようにする」などの自身の生活に活用できる具体的な記述が目立つようになった。

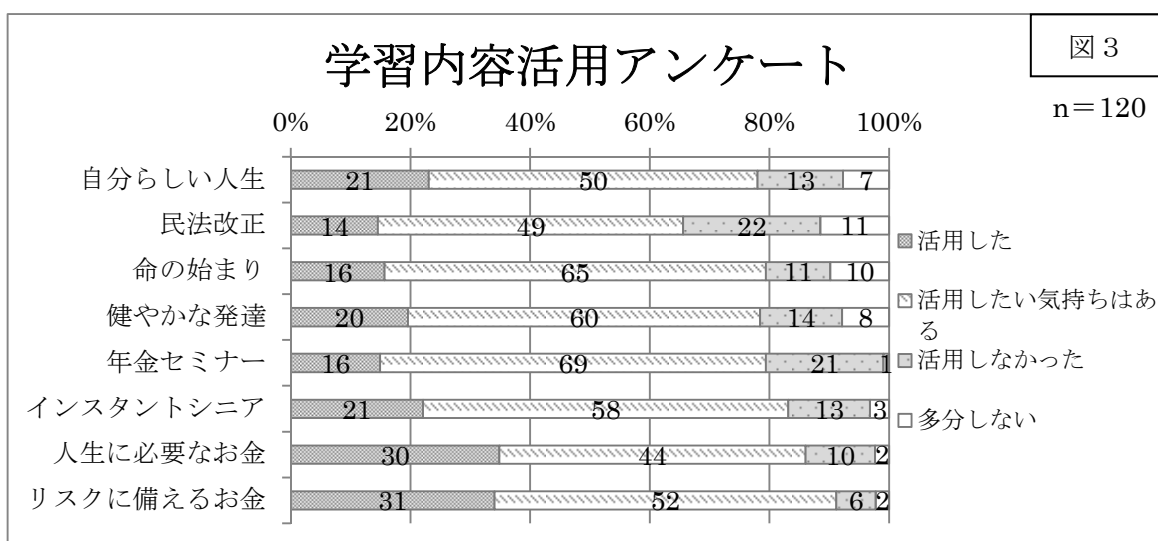
## (8) 成果と課題

導入時に到達度チェックを取り入れることで、学習内容の目標が明確になり、生徒に授業全体の見通しをもたせることができた。また、「お悩み あるある」で主食に偏重した3食（コンビニ食）に悩む友人へのアドバイスを考えるという具体的例題を扱い、目指すべき食生活の在り方と問題解決のアプローチ方法をイメージさせることで、「課題を設定する力」と「解決策を構想する力」を育成する「やるやる 実践」に円滑につなげることができた。

「やるやる 実践」の課題をできるだけスモールステップにするという改善には、スムーズに授業を展開させて生徒の思考を導くことができるという効果があった。改善後の「やるやる 実践」では「明日から取り組みたいこと」として具体的な行動内容を引き出すことができ、仮説に基づく本時のねらいはおおむね達成できたと考える。

一方、課題としては、1単位時間で内容を完結させる更なる工夫が必要である点が挙げられる。「やるやる 実践」で自分の食生活を振り返り理想的な食事バランスに整えるために、昨日の一日の食事内容を思い出す、という何気ない毎日における食事の振り返りを丁寧な作業によって行った。しかし、生徒の能力や食に対する関心の差によって、時間がかかったり、完全には思い出せなかったりしてその後の取組に続けられないことがあった。通信制課程であり、授業参加前に宿題を課すことは難しいが、次年度は前もって「昨日一日分の食事を記録する」呼びかけを行ったり、授業開始前にプリントを配布したりして、思い出せるだけ先に記入させておくといった試みを行いたい。

また、学習内容活用アンケートについては、以下のとおりであった(図3)。





授業で学んだことを実生活で「活用した」割合が高いのは、「人生に必要なお金」と「リスクに備えるお金」の項目内容である家庭経済の2項目であった。「進路を考えるときに、やりたい事だけでなくお金のことも考えるようになった」、「将来一人暮らしするために、無駄遣いをやめ、貯金し始めた」など、具体的に活用している様子がうかがえる。一方、法律に関する内容や保育、年金を扱った授業内容は「活用した」割合が低く、この内容が実生活とつながっていることを、どのように生徒に考えさせるかという課題が明確になった(図3)。

## VI 研究の成果

本年度の教育研究員全体の研究主題は、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」であり、高等学校部会の研究主題は、「新しい時代に求められる『思考力・判断力・表現力等』を高めるための授業改善」である。高等学校家庭部会では、「思考力・判断力・表現力」の中でも、「課題を設定する力」と「解決策を構想する力」を生徒に身に付けさせたい資質・能力と考え、「解決策を構想する力」を育成するために、生活における課題を「例題」である「お悩み あるある」で具体的な解決策を考えさせ、自己の生活を振り返らせる中で、課題に気付き、「課題を設定する力」の育成に取り組んだ。

以下、これらを「お悩み あるある」、「やるやる 実践」、到達度チェック、学習内容活用アンケート別に検証した。

### 1 「お悩み あるある」について

授業における例題活用には、①問題形式にすることで生徒の意欲を喚起できる、②授業にメリハリがつく、③生徒同士の対話的活動に発展させやすい、という特徴がある。例題を授業の核に据えることで「課題設定力」と「解決策構想力」を自然な流れで育成する構成ができた。生徒が身近に感じられる問題を取り上げるために、まずはどのように問題を「お悩み あるある」に設定するかという点が授業者の工夫の見せ所であった。

### 2 「やるやる 実践」について

授業の成果として、時間内に実践内容を考えさせることは一定の効果があったと考える。ここでの回答が具体的内容となっているかどうかによって、生徒の理解度が明確に分かり授業改善に役立つ側面もあった。

### 3 到達度チェックについて

到達度チェックの実施により、授業導入時に学習目標が明確にでき、まとめ時には生徒自身が到達度の変化を実感することができた。到達度チェックの内容を考えるにあたり、授業のねらいを絞ることで授業者自身も学習目標から逸れることなく授業構成を考えることができるという利点も確認できた。

### 4 学習内容活用アンケート

研究開始以前に生徒が学習した範囲について活用状況を確認するために行ったアンケートの結果は次のとおりである。このアンケートの結果からは、学習分野によって活用の具合が大きく異なることが分かった。中でも、法律や保育の分野における活用度が低いことは複数校に共通していた。生徒が実生活で活用しにくいと考えられる分野を扱う際に、授業構成に工夫を要することが明らかとなった(表4)。

家庭科の学習内容を生活で活用した生徒の割合(表4)

	A 高校	B 高校	C 高校
「活用した」の回答が最も多かった学習内容	36.2%	70.0%	34.9%
「活用した」の回答が最も少なかった学習内容	11.6%	14.0%	14.6%

## Ⅶ 今後の課題

### 1 導入時・まとめ時の工夫

到達度チェックを導入時に取り入れることで、授業のねらいがぶれず、生徒に学習の見通しをもたせることができたのではないかと考える。どの単元においても、導入時の発問で、到達度チェックを取り入れることができるのであれば、生徒の学びには有効であると考え。学習の内容を明確にし、見通しをもたせ意欲的に学習をさせるためにも、ねらいを達成するのに効果的な発問の工夫を検討することが必要である。また、まとめ時に到達度チェックで振り返らせることで、生徒の理解度を深め、次の授業への学習意欲を高めさせる効果もあると分かった。

一方で、簡潔で、何が聞かれているのかが明確に生徒に伝わり、生徒も考えやすい発問や到達度チェックの内容を考えるために、授業準備に時間をかけて検討する必要がある。

### 2 展開時の工夫

生活における課題を例題として提示する「お悩み あるある」は、具体的例題を取り扱うことで、現在及び生涯を見通して主体的に生活する意識が低く、実生活における課題が見いだしにくい現代を生きる生徒には、「課題を設定する力」や「解決策を構想する力」を育成するのに有効であると考え。また話し合い活動によって、多様な意見や価値観に触れることができ、生活をより良くしようという意欲が出ていることも分かった。

「やるやる 実践」は、「学習内容をこれからの生活にどのように生かすか」を考えさせたが、単元の内容によっては、自分の生活を振り返り、すぐに具体的な行動変容が見られる場合と難しい場合があった。しかし、どの単元でも、将来の生活へ生かしていきたいという前向きな姿勢は見られ、思考を深めることへつながったと考える。

今後は、思考を深め、将来の生活へ生かしていきたいという姿勢を継続させるため、学習内容の活用を促し、自身だけでなく、家族の生活も含め、地域とのつながりをもたせることができるような課題の設定を行うなどの工夫が必要である。

### 3 まとめ

本時のねらいはおおむね達成できたと考え、今後の生活で、このことが継続して続けていけるかは分からない。授業後に、学習したことがどのくらい生活に反映されているのかについて、今後も継続した追跡調査が必要である。自分の生活をよりよくしようとするには、授業で学んだだけでは定着を図れない。自分の生活で実践し、生かしてみることで理解を深め、さらに実践活動を通して取り組むことで、主体的に行動する力を付けていくことができる。学習内容を発展、応用させることのできるホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を取り入れた授業実践が今後の課題である。

# 平成 29 年度 教育研究員名簿

## 高等学校・家庭

学校名	職名	氏名
東京都立足立西高等学校	主任教諭	井上 さおり
東京都立一橋高等学校	指導教諭	山口 瞳
東京都立井草高等学校	教諭	◎ 田部井 智世

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課  
課長代理 中村 留美

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

高等学校・家庭

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社